

## 新潟医療技術専門学校

渡辺 正友\*

### はじめに

本校は 1971 年に臨床検査技師養成校として開校した。以来、38 年を経過し、東北・北信越・関東方面を含めた地域の医療技術者の養成校として実績を積み重ねてきた。この間、視能訓練士、救急救命士の養成も開設した。

本校では、実践を通して確かな技術を身につけ、患者さんへのやさしい心を育む、「実学」を学ぶことを教育の方針としている。臨床検査技師科では、検査技師へのモチベーションをより強固なものとするために入学生全員に対し臨地見学実習として、先輩の検査技師さんが働く病院や検査センターを見学している。また、全ての学内実習には 2 名の教員担当者を置き力をいれている。卒業生数はこれまで 2,880 人となり、新潟県内はもとより各地域で中堅幹部として活躍しているものも多い。

### I. 教員の資質向上

本学科の専任教員数は 9 名であるが、毎年 2 名程度は新潟市内の病院へ研修に行っている。また、新潟大学医学部での研究・研修によって修士を目指す教員を全員でサポートしている。更に、新潟県臨床検査技師会の役員として研修会講師を担当するなど臨床検査技師の卒後教育に携わっている教員もいる。

これらの研究・研修を通して、常に学生への教育の改革と進歩を図り、更に医学・医療の進歩に

遅れないよう講義・実習を工夫している。また、学内の自己評価委員会が全教員を対象に実施する学生による「授業評価アンケート」なども講義・実習に最大限生かすよう心がけている。

### II. 国家試験対策の課題と改善策

本校卒業生の国家試験状況は表 1 に示すように、第 51 回、52 回で、開設以来初めて合格率が全国平均を下まわったが、その後の 2 年間は全国平均に戻っている。その時点での対策として、学生アンケートなどを参考にして従来からの指導法を大幅に見直し実施した。以下の項目は現在も続いている。

① 成績上位の者は授業、模擬試験の実施で十分と考え、中・下位の学生にとっては一律の授業だけでなく、その結果からきめ細かくすべての教員による個別指導が必要と考え、その時間を設定している。② 模擬試験の形式では、総合模擬試験(国家試験と同じ形式)を増やし、時間配分や実際の国家試験を常に意識させるように計画し実施している。③ これまで集中講義(1、2 年で既履修済みの教科)は、外来講師に依頼していたが、より国家試験対策的な観点からの講義が必要と判断、原則として学内教員がこのような講義を行うことにした。④ 早い時期から学生に国家試験を意識させるとともに、対策勉強をカリキュラム上で早期に開始できるようにしている。⑤ 基本的には 1 年次からの各教科内容をしっかり理解させる(予習・復習の習慣をつけさせる)ことと、出欠席管

\* mwatanab@niigata-coll-mt.ac.jp

表1 国家試験の結果推移

	本校	全国
第54回国試(2008年3月)	73.9% (51/69)	73.7%
第53回国試(2007年3月)	86.2% (56/65)	74.7%
第52回国試(2006年3月)	68.7% (46/67)	72.9%
第51回国試(2005年3月)	66.7% (32/48)	75.2%
第50回国試(2004年3月)	88.9% (56/63)	79.0%

理を強化することが重要と考えた。また、早い段階から国家試験についての意識付けをするため、その具体的対策として、1年から2年時にかけてガイドライン対応の「臨床検査技師国家試験ファーストトレーニング」も該当する教科のなかで活用するようにしている。更に、2年生には国家試験問題形式で模擬試験を数回実施している。

### III. 就職対策の実情

平成19年度の求人情数・求人人数を前年度と比較すると求人情数286件(前年235件)、求人人数988人(前年748人)と増加している。就職率は毎年3月末で90%前後であるが、4月以降も含めると殆どの者が就職している。

今年度行っている就職活動は、就職先(病院・企業等)への対策として、実績病院及び開拓先施設に対し、本校のPR就職資料を送付している。また、就職開拓や地域の求人情報収集のために実績病院等の訪問を実施している。公務員関係の就職対策として、1年から3年生全員に「一般教養対策模擬試験」を実施。また、2年生への「就職説明会」は、3年生からのアンケートを参考に実施し、2年生後半には「接遇マナー講習会」や保護者、学生、就職担当者の3者による「進路個別面談会」を行い適切な就職活動ができるよう指導している。就職相談室には専任職員1名が常駐し5時以降もその指導にあっている。

### IV. 志願者確保の対策

本学科は、2006年度から2008年度は入学者数が66名、47名、50名となり80名の定員を確保できていない。この背景には、先ず少子化問題、そして四大化指向が考えられる。特に従来専門学校指向が高かった新潟県内での大学進学率の急増は痛手である。本校はこれまでに入試改革として一般入試における選考方法の変更やAO入試の取り入れを行ってきた。また、広報活動では従来の活動に加え高校生へ直接アピールするネットやポスターに力を入れてきた。更に、学科独自のミニオープンキャンパスを開催するなどした。これらの結果、資料請求数やオープンキャンパス参加数は増加したが志願者増には繋がっていないのが現状である。

今後は、これまでの広報活動に加え臨床検査技師という職業を社会全体に強くアピールするため、各県の技師会の協力を得て先ず高校生対象の講演会等を開催する考えである。

### おわりに

以上簡単に述べたが、この他にも「学生指導関係」「臨地実習関係」「過密カリキュラム関係」「休・退学関係」などの対策と検討を積極的に行っている。なお、将来に向けて臨床検査技師科の定員削減と大学化への道を現在検討している。